

グローバル人材育成推進事業

2014年4月
経団連社会広報本部

1. 経団連グローバル人材育成スカラーシップ事業

海外留学をする日本人学生が減少していることを踏まえ、将来の日本企業のグローバルな事業活動をリードする人材を育成・支援する観点から、学部生・大学院生の海外留学推進に向けた新たな奨学金を設置した。

(1) 事業の概要

- ① 経団連が協力して運営する「公益財団法人 経団連国際教育交流財団」に、将来、わが国企業の国際的な事業活動に携わろうという意欲を持つ学生を対象とした奨学金「経団連グローバル人材育成スカラーシップ」を2011年12月に新設した。
- ② 経団連国際教育交流財団の積立資産からの拠出に加え、経団連役員企業等に資金協力を依頼（1社100万円/年）。2012年度は36社、2013年度は37社からご寄付いただいた（2014年度については、現在までに38社より寄付ご内諾）。
- ③ 日本の大学生・大学院生が交換留学などで海外の大学に留学する際、一人100万円の奨学金を支給。用途は特に限定しないが、留学中に自己研鑽や見聞を広め、多様な経験を積むための資金としてもらう。
- ④ 留学開始前に、抱負や課題を奨学生同士で共有するための「課題共有会」を開催（経団連会員企業でグローバルに活躍する若手社員からも、自身の体験に基づくアドバイスをいただいている）。留学期間中は、ソーシャル・ネットワーキング・サービスを利用して、現地での生活やインターンシップの機会などに関する情報提供・助言を実施している。

(2) 2014年度奨学生の募集・選考

- ① 政府の国際化拠点整備事業「グローバル30」採択13大学（東北、筑波、東京、名古屋、京都、大阪、九州、慶應義塾、上智、明治、早稲田、同志社、立命館）をはじめ、国際化に熱心に取り組む46大学を対象に募集した（学生による自由応募）。
- ② 231名の応募者から、書類選考と面接試験を経て36名を選抜（寄付ご協力企業の人事担当者が選考委員となり、10月21日に面接選考会を実施した）。36名の内訳は、男性19名・女性17名、文系29名・理系7名となった。

2. 合同就職説明会・面接会「経団連グローバルキャリア・ミーティング」の開催

大学生・大学院生が海外留学をためらう理由の一つとして、「留学後の就職活動の難しさ」が挙げられている。これを受けて、海外留学を終えて帰国した大学 4 年生・大学院修士課程 2 年生を対象とする合同就職説明会・面接会「経団連グローバルキャリア・ミーティング」を 2012 年より開催している。

【2013 年の経団連グローバルキャリア・ミーティング】

(1) 日 時：2013 年 7 月 31 日（水）午前 10 時～午後 6 時

(2) 場 所：経団連会館

(3) 出展企業：経団連会員企業 30 社・グループ

住友化学、J X 日鉱日石エネルギー、日立製作所、小松製作所、NTTグループ、東日本旅客鉄道、第一生命保険、三菱重工業、新日鐵住金、トヨタ自動車、東芝、三菱マテリアル、パナソニック、資生堂、日本生命保険、野村証券、全日本空輸、出光興産、住友商事、積水化学工業、損害保険ジャパン・日本興亜損害保険、三菱化学、SGホールディングスグループ、島津製作所、ダイキン工業、TOTO、日本政策投資銀行、日野自動車、富士電機、三井住友信託銀行

(4) 参加学生：227 名（経団連グローバル人材育成スカラシップ 2012 年度奨学生も参加）

(5) 内定状況：出展企業 12 社で延べ 20 名が内定

（経団連グローバル人材育成スカラシップ 2012 年奨学生は 3 名内定）

3. 「経団連グローバル人材育成モデル・カリキュラム」の実施

大学入学後、なるべく早い時期に学生にグローバル・ビジネスで働くことへの動機づけをして欲しいとの企業側の意向を踏まえ、企業の実務者によるグローバル・ビジネスの実態に関するモデル・カリキュラムを上智大学にて2012年度より実施している。

(1) 導入講座「グローバル・ビジネスの現状と課題」

実施学年	大学2年生 秋季(10月～2月)
単 位	2単位(全学共通科目)
人 数	30名前後(レポート、語学力、成績要件により大学側が選抜)
コーディネーター	上智大学経済学部経営学科 網倉 久永 教授
参加企業	2013年度: 9社(住友化学、日立製作所、三菱商事、三井住友フィナンシャルグループ、日本郵船、東京海上日動火災保険、JXホールディングス、日本電気、本田技研工業)
内 容	グローバル・ビジネスの現場で働く企業人が講師を務め、グローバル事業の理念や現状、直面している課題等の講義を通じて、学生に企業がグローバル人材に求めている素質、要件を学生に周知。講義終了時に企業講師より課題を提示、課題についてのレポートを作成するとともに、グループ討議を実施。最終講義は経団連会館で開催し、企業講師に対して学生がグループ毎にプレゼンテーションを行う。
評価方法	① 企業側から提示される課題に関するレポート ② グループ討議の内容(2～3回実施。グループ討議のファシリテーターは参加企業から派遣) ③ 最終講義のプレゼンテーションの内容 ➤ 最終講義の課題: グローバルなビジネス環境で活躍する人材の活用に向けた「ユニークな取り組み」を行っている企業を取り上げ、その概要を簡単に述べた上で、取り組みの長所と課題を指摘せよ

【2013年度秋季における講義内容・課題の事例】

A社 (IT)	講義: ITソリューション事業のグローバル・ビジネス拡大における課題 課題: 日本大手ソリューション企業の新興国市場でのビジネス拡大の方策
B社 (製造業)	講義: 世界鉄道市場を取り巻く課題と、英国鉄道市場への挑戦 課題: 英国鉄道(或いは海外鉄道)の今後についての戦略策定
C社 (化学)	講義: Our business, Support for Africa, and Global Talent Management 課題: (1) What is the tacit traditional concept of C tries to demonstrate by seeking to benefit not only its own business but also the nation and society? (他2題)

(2) 本講座「グローバル・ビジネスのフロンティア」

導入講座の履修者(大学3、4年生)を対象に、導入講座の内容を深掘りした内容の本講座を2014年度春季(4月～7月)に開講する。

4. 高校生の海外留学支援（UWC日本協会）

（1）事業の概要

UWC(United World College)は、世界各国から選抜された高校生を世界12カ国にある全寮制のカレッジ（高校）で2年間受入れ、国際バカロレア（IB）課程に則った教育を通じて、グローバル人材を育成する国際的な民間教育機関。

経団連は、1972年よりその日本協会の事務局を務め、会員企業の寄附を原資とする奨学金を支給して、UWC各校にこれ迄累計で501名の高校生を派遣している。

（2）2014年度派遣奨学生

105名の応募者から、第一次試験（英語、国語、数学）で43名を選抜し、第二次試験（日本語面接、英語面接、グループ討議）を経て18名が合格。本年夏より、英国、米国、カナダ、オランダ、イタリア、ドイツ、インド、香港、コスタリカの各カレッジに留学予定。

（3）奨学金の原資

経団連主要会員企業52社、および個人による会費（寄附）

（4）卒業生の主な進学先・就職状況（これ迄の累計）

①進学先

[国内大学]（これ迄の累計：263名）

1位：京都大学 2位：慶應義塾大学 3位：国際基督教大学
4位：上智大学 5位：東京大学

[海外大学]（これ迄の累計：196名）

1位：ロンドン大学 2位：LSE 2位：マッギル大学
4位：オックスフォード大学 5位：トロント大学

②就職状況

1位：銀行・証券・生命保険・損害保険
2位：教職・研究職
3位：外務省・日本銀行 他
4位：医師 等
5位：弁護士・会計士・建築士・コンサルタント

以上